

平成 21 年第 2 回定例会 議会報告

(平成 21 年 6 月 4 日～6 月 23 日)

秦野市議会議員 神倉ひろあき



●6 月 4 日から始まった、本年第 2 回定例会は、提案説明を皮切りに議案審議、一般質問、常任委員会、と続き、6 月 23 日の最終日は、委員長報告等をもって終了しました。以下、報告いたします。

● 6 月 9 日における、私の一般質問は、「秦野市の将来構想」について取り上げました。

★「秦野市の将来構想について」

・秦野市都市マスタープラン、はだの 2010 プラン及び新総合計画の実現は、財政基盤の確立を、いかに図るかにかかっている。・第二東名自動車道が、平成 32 年度末に完成を目指して進行している今こそ、関連する開発計画を策定し、健全な自主財政の確立により「みどり豊かな暮らしよい街」の実現を目指せ！！

質問 平成 12 年に作成された「秦野市都市マスタープラン」や、「はだの 2010 プラン」にある「活力とにぎわいのあるまち」とは、雇用の創出、人口増化、若者の定着によって、地域経済が活性化し、健全な自主財政が確立されることである。本市の（国勢調査人口に対する）昼間人口の割合は、82.8%であり、昼間、東京・平塚・厚木・伊勢原・中井に、かなりの人が流出している。近隣では、中井町が、127.4%、厚木市は、114.7%、平塚市は、101.1%、小田原市、98.0%、伊勢原市、91.2%であり、本市は、雇用の創出や若者の定着が思うように進んでいない。定例会で毎年、企業誘致に触れており総合計画には、東名秦野テックパーク等の企業誘致やブレインヒル柿の木原構想がある。誘致活動の状況と結果について、工業団地は、①地域別に、何区画あって、何区画に企業が入っているか。②過去 5 年間に、どんな企業が、どこに来たのか。③去った企業は何社あり、それはどこか。④誘致活動の状況⑤今後の展望を伺いたい。

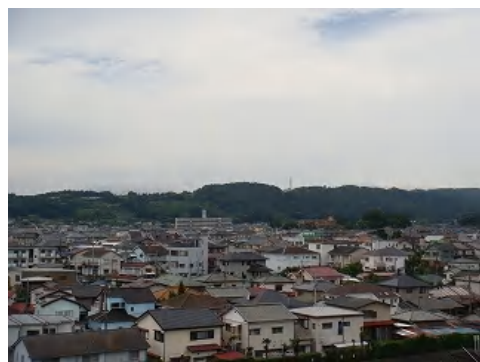
①の回答 大秦野工業団地は、7644 m²で、区画数 9 区画に、9 社が立地している。堀山下テックパークは、24 万 m²で 7 区画に 7 社が立地している。平沢工業団地は、約 1 万 1 千 m²で、9 区画に 9 社が立地している。東名テックパークは、2 万 6 千 8 百 m²で、現在、6 社が土地の買収や社屋の建設に入っているが、まだ、8 千 m²が残っている。

②の回答 市外からの立地は、横浜油脂工業と J. MACC の 2 社である。**③の回答** 深沢製作所やフェデラルモ等、4 社である。**④の回答** 秦野市企業等の立地の促進に関する条例を「秦野市企業等の立地及び施設再整備の支援に関する条例」に改正した他、市のホームページに掲載、県と連携し、現地見学会やテクニカルショー横浜での企業誘致ブースでの PR、県の工業用地データ・産業用地ガイドへの掲載等をしている。**⑤の回答** 東名秦野テックパークは情報通信業又は、研究開発型産業施設という決まりがあること。用途地域での工業専用地域には、約 2 万 m²の空地があるが、1 か所当たりが、千 m²から 3 千 m²であることで、厳しい状況である。

(ブレインヒル)

(東名秦野テックパーク周辺)

(東名秦野テックパーク)



質問 総合計画にある「みどり豊かな暮らしよい都市」の実現とは、財源を確保し、高齢者等の福祉、子育て支援、学校教育の充実、都市防災機能の強化等の施策の達成である。予算規模が縮小する今、何等かの形で財政基盤の確立を図ることが、総合計画の完成と新総合計画の実現に繋がる。注目は、秦野中井インターチェンジと第二東名自動車道、厚木秦野道路に、3 つのインターチェンジと 1 つのサービスエリアが市内に設けられ、他市にない大きな経済効果をもたらす。観光をはじめ、地域産業の振興、中心市街地の再生に光が射し、新たな施策が実現し、本市が、躍進する千載一遇のチャンスになる。こうした現状を踏まえて、

①秦野中井インターチェンジ近郊における商工業地域の開発等、土地活用。②第二東名自動車道、厚木秦野道路に係る三つのインターチェンジと一つのサービスエリア近郊の土地活用と今後の方針

